



教育ゆりほんじょう

第 8 号
令和 6 年 2 月 28 日
由利本荘市教育委員会
学 校 教 育 課
教 育 支 援 セ ン タ ー

第2回由利本荘市コミュニティ・スクール 連絡協議会が開催



令和 6 年 1 月 3 0 日 (火) 午後 2 時半から西目公民館「シーガル」で、第 2 回コミュニティ・スクール連絡協議会が開催されました。

主な内容は、「全国大会の報告」「今年度のCSの振り返り」「講話～ゆり支援学校のCS～」「CSマイスターの講評」です。

ゆり支援学校は、県内の支援学校で唯一のコミュニティ・スクールです。地域力を活かして、職業教育や交流学习、地域貢献活動などを進めることで、地域の大きな力になっているという取組を校長先生から発表いただき、とても参考になりました。以下に、その取組の一部を紹介いたします。

ゆり支援学校のCSの取組

コミュニティ・スクールという仕組みを活用した教育活動

- ◆「地域資源を活用した職業教育」～高等部には、食品加工班・陶芸班・ビルクリーニング班・木工班がある。地域の方々と直接触れ合ったり、校内の作業学習の成果を地域で発揮したりすることで、生徒が喜びややりがいを感じる貴重な機会となっている。CSディレクター(=地域コーディネーター)には、地域に積極的に働きかけてもらい、連携していく関係機関や地元企業を開拓していただいている。
- ◆「交流及び共同学習の充実」～小・中学校との居住地校交流や高等学校との作業学習、部活動、寄宿舎生徒の交流などを進め、地域社会で共に生きていく基礎作りにも力を入れている。
- ◆「地域貢献活動の推進」～町内会の方々と交流しながらの花壇整備や除雪など、生徒達は自分たちができることを地域のためにやる活動を通して、自信がもてるようになってきた。

学校運営協議会を実効性のあるものにするために

学校運営協議会で熟議や協議を行い、それを教育活動へ反映している。話し合いを活性化するために、県の生涯学習センターの職員の方に協力を仰ぎ、進め方の助言や進行をお願いしている。

成果と今後の課題

これらの教育活動は、児童生徒の活躍の場が広がり、また、地域の人に必要とされている、役に立てるといふ喜びや人への信頼感、人と関わる自信と意欲の向上につながっている。学校運営協議会の委員には、意見というよりは「自分の立場だったらこういうことができるかも」という切り口でお話をいただいている。学校の良い理解者・応援団となっただけ、周囲の方々にも紹介したり、活躍の場を提案していただいたりしたことは、ネットワークの拡大につながった。今後は、地域の防災の拠点としての機能を発揮して地域連携を強化し、できるだけ委員の皆様の負担を少なくしつつ、互恵性のある学校運営協議会となるよう、関係者のより主体的な参画、機能的な運営をしていきたい。地域のネットワークの中で、本校の児童生徒が十分力を発揮して認められ、力強く生きている社会、共に支え合いながら生きることが当たり前の共生社会に一歩でも近付けるように前進していきたい。

CSマイスターの講評

- ・子どもだけでなく、そこに関わる大人たちも元気になることが、コミュニティ・スクールの一番の目的。コミュニティ・スクール単独で行うのではなく、必ず社会教育の地域学校協働活動を一緒に動かしていくということが、今、由利本荘市だけではなく全国的な課題になっている。
- ・各地域の今年度の活動を振り返る上で、課題をしっかりと把握することが大切。その上でどうやって進めていくかを考えてほしい。少子高齢化などの課題もあるが、マイナスをプラスに変えていくためにも、コミュニティ・スクールがとても大事なツールになる。楽しくワクワクするコミュニティ・スクールを進めていくためにも、これからも皆様のお力をお貸しいただきたい。

今年度は、コロナ以前とほぼ同様に活動できた地域がほとんどであったことが、大きな成果といえると思います。活動の再開にあたって、熟議を取り入れたり、ねらいや教科とのつながりなどを見直し精選して実施したりした学校が多かったようです。各校のCSの振り返りを冊子にまとめ配布していますので、来年度の見直しをもつために活用していただければと思います。(文責 CS協働コーディネーター 板垣 一恵)